

小学校におけるMoodleを活用した4年間の実践

福島 耕平（三重県鈴鹿市立白子小学校）、下村 勉（三重大学教育学部）

実践のねらい

自律的な学び

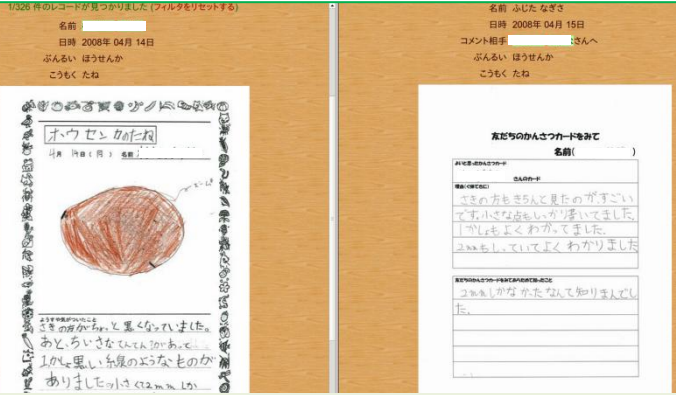
- 協働学習に相互評価をとり入れ、自己評価と統合することで、客観的な自己評価が可能となり、客観的な自己評価は、自律的な学びにつながる。
- 小学校における協働学習と相互評価を支援するためのMoodleの有効的な活用方法を探る。

moodleの活用

学習者参画型データベースの考え方にそって、協働学習環境（Collaboration & Learning Environment）として活用。

学習者参画型データベース（下村,1995）
学習者が自ら学んだこと、創造したことをデータベース化し学習成果の共有を図ることをねらいとするデータベース

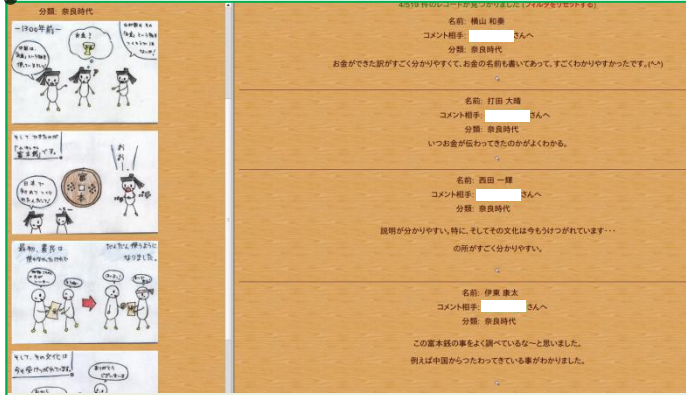
2008年度 3年生 理科の実践



【実践の概要】

- 観察カードをスキャンし、学習成果をデータベース化。コメントカードも手書きのものをスキャナで取り込んだ。

2009年度 6年生 社会の実践



【実践の概要】

- 歴史の単元ごとに4コマ漫画でまとめをした。コメントは、直接入力で行った。

2010年度 5年生 国語の実践



【実践の概要】

- 5年生、24人を対象に週一回のペースで、140字のミニ作文を年間39回実施。
- 14×12の原稿用紙（本文140字）に書き込み、Moodleに打つ。
- 打ち込んだものをMoodle上で共有・交流し、通信としても各家庭に配布した。

【実践後の事後アンケート】（N=23） 2010.12.17



【アンケート中の子どもたちの自由記述】（抜粋）

- 一つの課題からいろんな言葉や気持ちの現れが140におさめてあるっていい。
- つぶやきをいつも書いているとだんだん作文が上手くなっていっている気がします。自分の考え、人の考えをみたりするのが楽しい。

4年間のMoodle活用における成果と課題

成果

- 学習成果を共有・相互評価を学習の中に位置づけることは、学習の動機づけにつながる。
- 学習の振り返りやポートフォリオとしても簡単に活用ができ、学習成果の活用範囲が広がる。
- 認め合う相互評価の活動は、児童の内発的な動機づけにつながる。
- 学びを通じた学級集団づくりにも有効である。

課題

- 小学校において、授業で効果的に活用するためのMoodle活用モデルの提案が必要。

